

質問東京都では都民の安全・安心を守る立場から、警察や消防関係者にワクチン接種を実施すると報道されました。

こうした視点を沼田市に当てはめて考えますと、医療関係者と同様、エッセンシャルワーカーの中には、見落としてはならない重要な優先接種対象者が存在しています。**介護従事者、学校の教員の方々、幼稚園、保育園、学童保育関係者、そして、訪問を含めた福祉関係従事者**の方々は、コロナ禍にあってもサービスの提供の中断が許されない重要な社会的事業です。

しかも、既に複数の感染者や濃厚接触者が、誠に残念ながら報道されるに至っています。

時は既に高齢者優先の計画実行のステージに入っています。この実施計画を混乱させることなく、市長の英断と担当部局の英知によって、**感染拡大を防止するために、最大かつ効果的なワクチンの優先接種の具体的な実施方法**を強く望み、市長の決断をお聞きいたします。

答え当面確保できるワクチンの量に限りがあり、その供給も順次行われる見通しであることから、国の接種順位に基づいて、クラスターの発生頻度の高い入所居住型高齢者施設の入所者や従事者等の接種を優先的に実施してきています。

さらに、国における「新型コロナワクチンの高齢者向け接種の前倒しについて」の発出を受け、夜間における接種体制も整え、集団接種の日程を追加し、早期のワクチン接種に向けて取り組んでいます。

一般利用者料金（料金表の100％）

利根郡内者の利用料金
（料金表の半額）

沼田市内の登録団体
（料金表の1／4）

**設置場所は会館本館の
受付窓口前自販機周辺**



エッセンシャルワーカーへの優先接種を市長が英断

再質問障がい者手帳を持っている方々は、3,000人ぐらいいらっしゃいます。施設のスタッフの方々は、大体200人弱です。今の接種のペースでいくと、1日か2日入れ込むことができれば、64歳以下の開始の前先に接種できちゃうんですよね、こうした方々は。教育長もいらっしゃるかもしれませんが、**学童や学校の先生なんかは、夏休み中**というのはできないんでしょうかね。再度考え方をお伺いしたいと思います。

再答弁まず、集団接種で6,200人、個別接種で5,000人、この1万6,646人の対象者があくまでも沼田市の65歳以上の方で、このワクチン接種は希望者のみを接種するということですので、希望していない方は接種しないので、沼田市としてはこの数字で80%を目指していきたいと考えている次第です。
（つまり、16,000人×20%＝約3,200人分のワクチンが、夏休み中には「余る」ことに…）
私は、障害者の方は、やはり**優先的に接種するという方向でしっかり検討**させていただきたいと思います。

お知らせ

利根沼田文化会館の多機能トイレが改修

本年の成人式に参加された障がいを持つ方から「トイレ使用の際の不自由」とのご指摘を受け一般質問させていただきましたところ関係者の方々の深いご理解により多目的トイレが改修されることになりました。

また、利根沼田圏域内の文化活動の更なる振興のために利用料金を大幅に減額されることも、決定されました。

これを契機に多くの方々に利用され、愛される施設になることを切望致します。

文化会館使用料金比較表（高柳作成）

		区分	午前	午後	夜間	利根郡内 利用者	午前	午前	夜間
			一般利用者（利根郡以外）				沼田市内登録団体（更に半額）		
大ホール	平日	仕込み・リハ	7,630円	10,180円	12,730円	一般利用者 の半額料金	1,900円	2,540円	3,180円
		入場料500円以下	16,500円	22,000円	27,500円		4,120円	5,500円	6,870円
		501円～1,000円	25,250円	31,670円	37,990円		61,310円	7,910円	9,490円
	土日祝	仕込み・リハ	10,180円	12,730円	17,820円		2,540円	31,809円	4,450円
		入場料500円以下	22,000円	27,500円	38,500円		5,500円	6,870円	9,620円
		501円～1,000円	31,670円	41,750円	53,160円		7,910円	10,430円	13,290円
小ホール			6,720円	8,960円	11,200円		1,680円	2,240円	2,800円
会議室			1,120円	1,320円	1,520円		280円	330円	380円

沼田市議会議員高柳かつみ と明日の沼田を前向きに考える情報誌

まちかどニュース



2021年 冬期N O 66号

発行責任者 高 柳 勝 巳 〒378-0055 沼田市柳町2583-8 ルピナス103号 ☎ 25-8062
ホームページ <http://www.ayumu-kai.jp/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com

運行系統の概要・凡例

沼田市周辺公共交通マップ

2022年春！ついに「デマンド交通」導入へ！
みんなで乗車して改良し、生活の改善と共に育成していく視点が重要です。課題も多く、新たな仕組みへの沼田市と事業者と市民の「新時代への挑戦」の始まりです。

写真はイメージです

写真はイメージです

デマンド方式の導入は議員になって間もない平成16年。今から17年前でした。多人数が利用し、定時・定路線では時代の流れに対応出来なくなるとして、利用者の需要に合わせた交通システムへの変更を提案しました。（詳細は次ページ以降）

66号の概要

私の一般質問（12月）

- デマンド交通開始へ（M a a sの活用）
- 中央公民館跡地を含めた街中再生策の検討へ
- 居住に課題を抱える方々を街なかへ

●保健福祉センターの今後の利活用方法

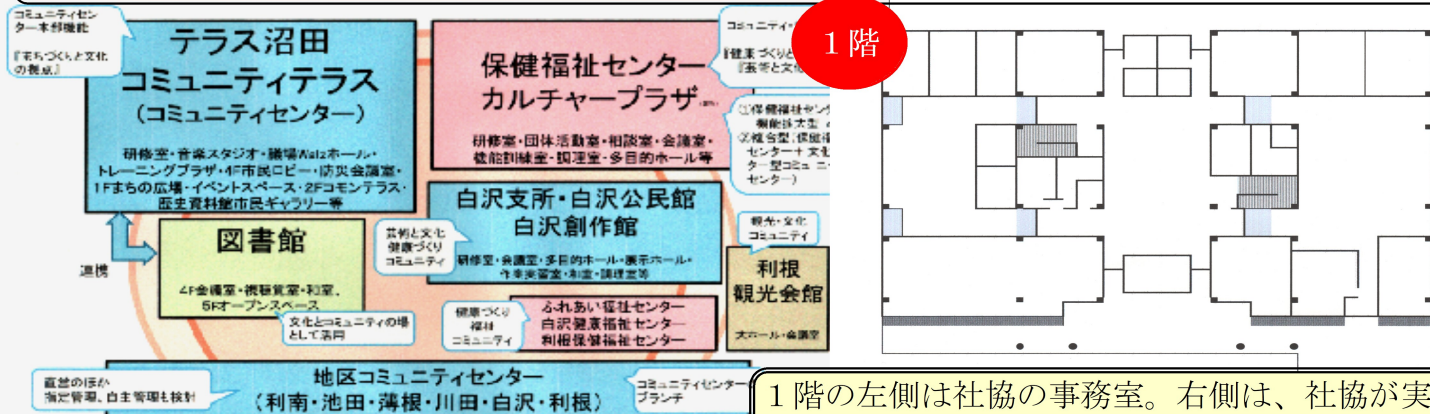
私の一般質問（6月）

- 水泳授業の民間委託の試行（北小）
- 優先接種すべきエッセンシャルワーカー
- 文化会館の多機能トイレ化と料金減額

災害多発時代にも対応した新たな福祉拠点

保健福祉センターの新時代の福祉拠点へ！

令和元年のテラス沼田オープンに合わせて、公共施設の「専有状態」を使用目的と利用状況を詳細分析して、利用実態に合わせた「最適化・共有化」を図っていくべきと提言してきました。テラス沼田の複合施設化＝リノベーションと公民館コミュニティセンター化はその象徴です。



質問沼田市保健福祉センターの今後の運営について、複雑多様化する社会のニーズへのマッチングも視野に、沼田市公共施設等総合管理計画の趣旨も踏まえて「新しい公共施設」を目指して生まれ変わるものと大変期待をしています。現在の利活用の検討状況と今後の具体的利活用についてお聞かせください。

また、福祉や生涯教育は勿論、災害多発時代に対応した保健福祉センターが新たに担うべき使命は「災害活動拠点」であるべきと考えますが、市長のお考えを伺いたいと思います。

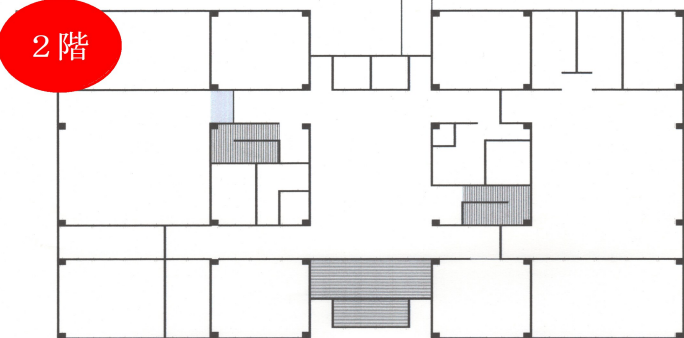
答え保健福祉センター内の高齢者デイサービスセンターの事業終了、及び第2福祉作業所を第1福祉作業所へ統合することにより、更に多目的な利用ができるよう、改修したいと考えております。

具体的には、1階に会議室や防音機能を備えた大会議室などのほか、バリアフリートイレや授乳室を設置し、3階には、和室や会議室を配置することにより、既に利用が可能な多目的ホールや調理実習室、会議室等とあわせて、保健福祉の拠点として機能の充実を図るとともに、中央公民館の代替機能を担う施設の1つとして、施設の多機能化、複合化を推進したいと考えております。

令和4年度以降、建物管理については包括管理に移行するとともに、施設利用等に係る日常的な施設管理については、業務委託により実施する予定であります。

今後につきましては、幅広い市民活動の場として、施設の更なる有効活用と利便性向上を図るため、安全で適切な管理に努めてまいりたいと考えております。

1階の左側は社協の事務室。右側は、社協が実施していたデイ・サービスを閉所して、会議室（和室）や防音機能を備えた部屋を設置予定。また、左奥の検診室の入口に当たる小部屋2つは「授乳室」へ改修するようです。デイ・サービスで使用していた調理室と管理室の改修や利用計画は、現在未定とのことです。

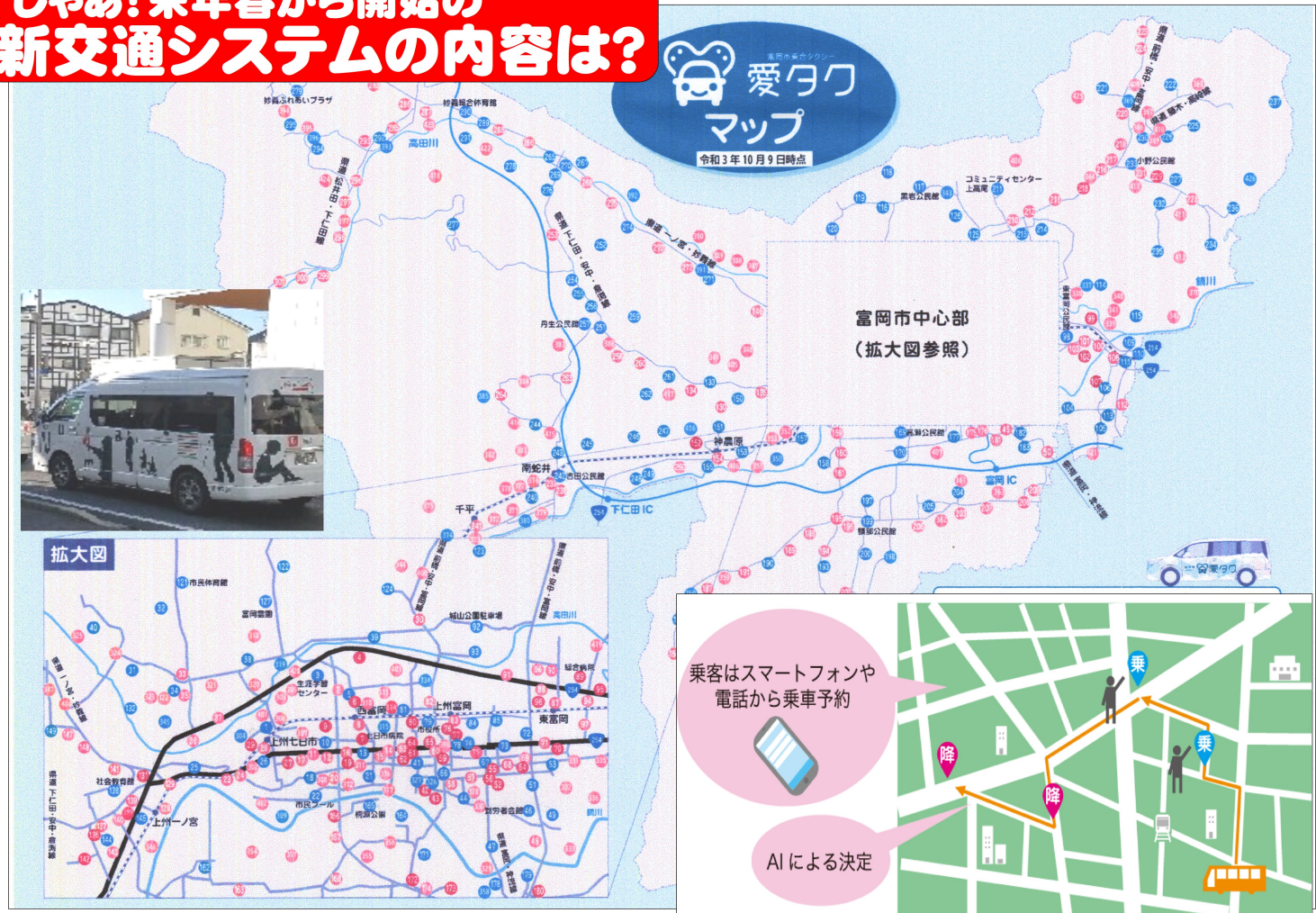


2階は、集約していただいた福祉作業所の荷物を整理するスペースと合わせて、通園施設アップルや機能訓練室を含めた、福祉活動重視フロアとしていくことが、フードバンク倉庫などと合わせ、防災対策上も望ましいと考えています。



3階右側の第2福祉作業所が2階へ移動することで、大きなスペースが確保できることになりました。ここは以前高齢福祉課が事務室として使用していましたから、貸室への貢献度は高いと考えられます。さらに右奥は既に「さくらんぼ」が移動していて空いています。

じゃあ！来年春から開始の新交通システムの内容は？



富岡市の「愛タク」を参考？

本年1月から富岡市で開始された予約制のデマンドタクシー「愛タク」を参考にしながら、制度設計されたものと推察しました。その理由は予約などを行う通信情報システム会社が「MONET」で沼田市と同様であることが質問中に理解できたからです。

市長とのやり取りで分かったことは、富岡市のものは、「相乗り」を可能として「割り勘」で乗車料金が安くできることに着目してタクシーを使用していることが沼田市との相違です。

以前に質問した際に沼田市ではタクシーの絶対量の確保が困難との答弁でした。ワンコイン程度の利用料金が望まれますが、いずれも鍵を握るのは「乗車率」です。

バス停の数を現在とは比較にならない程増やして「自宅付近」までバスが接近して、電話や携帯アプリで事前に予約をしてもらう仕組みのようです。（1時間前は可能）

朝夕の通学対策には、今、流行の「サブスク」（定額制低料金制度）等も新システムの具体化に追加活用できたら良いなあとも考えています。

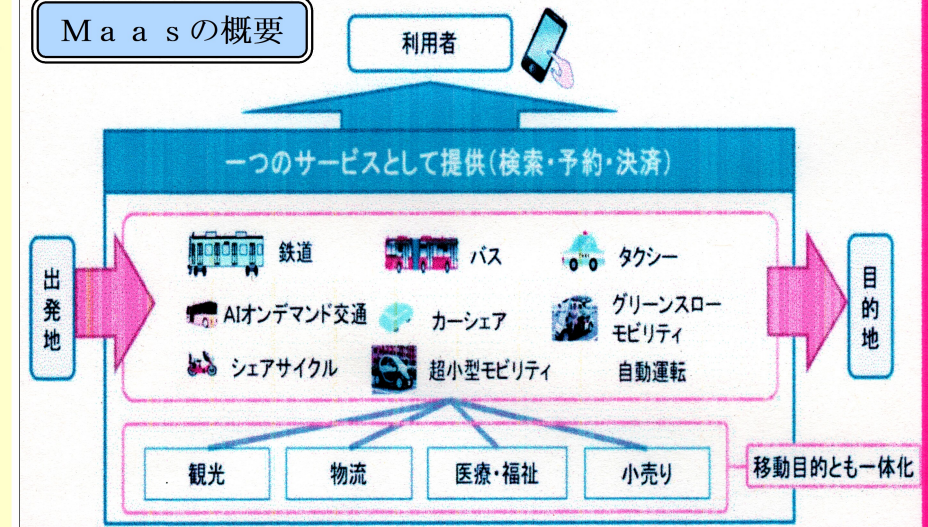
技術の進歩は誰のため！

国では国交省を中心に「新たなモビリティ」の検討や施行を始めています。今回の私の質問も、フィンランドのWhimやアメリカのUberのシステムを日本で展開していく試みの一つです。

欧米では問題なく歓迎受け入れ可能な新たな仕組みは、必ずしも日本の制度や仕組みにフィットするとは限りません。

新たな制度が日本の都市部の交通事業者の混乱や地方の交通事業者の衰退を招いては本末転倒です。また、交通弱者当事者にとって本当に利用しやすいかを忘れてはいけません。

Maasの概要



いよいよ「デマンド交通」開始へ！

課題はありますが市民全体で「育成・支援」で克服を！

平成16年に「改正」旅客運送法によって、参入・撤退が許可制から届け出制に変わり、バスやタクシーの事業が「規制緩和」された結果、都市部では利用者の奪い合いが発生し地方では運送会社が経営の危機状況が深刻さを増しています。

何でもかんでも規制で縛る時代は卒業しなくてははいけないと考えます。しかし、何でもかんでも「自由」って言うものでも無いと考えて、事業者の事情・都合を第一に考えた「定時定路線」では無く、利用する人や利用する目的に合わせた「デマンド」方式の導入で、利用者も事業者も良い方向に向かうことが可能になることを提案し続けてきました。

市長は「詳細はまだ、事業者と調整中」ということでしたが、現在の運行方法の継続は数字が示す通り困難なので、新たな仕組みへ「チェンジとチャレンジ」することだけは、理解できました。

質問新たな沼田市の公共交通は、「デマンド」の趣旨を活かして、これまでの事業提供者（サプライサイド）の側から運営をしてきた手法から、沼田市という行政が良い意味で「調整・仲立ち」を得ながら利用者目線の移動支援としていくことを、予てより切望してきていますが、その具体的検討内容について伺います。

ここ数年で、サンモール桜町店を拠点とした「とくし丸」の運営開始や医療法人が主催する「ゆきちゃん号」などの開始によって、買い物への支援が具体化してきています。

今後は「コロナ禍」対策として宅配の普及拡大も予想されます。本人が移動しなくても済む支援によって、沼田市の公共交通の利用頻度の減少も容易に推察される中、周知や説明方法などと合わせて、「新たな交通システム」をどう軌道に乗せていくお考えかお聞かせください。

答え現在、バスの利用者、運行事業者双方の効率性及び利便性の向上を図るため、市内全域におけるA I・I o T等の最新技術を活用した、デマンドバス運行の導入準備を進めています。利用者のニーズに応じて柔軟に運行するデマンドバスの運行は、買物弱者に移動手段を提供するものとして、課題解決に有効です。

さらに、買物支援策として、宅配、買物代行、移動販売等も有効であり、公共交通施策との関連に留意しながら、民間事業者及び住民と相互に連携し、様々な取り組みを進めることが必要と考えています。



沼須線よおまえもか！

厳しい乗車率は、中央病院に行く先にした沼須線まで下降傾向に至ってきていることが、全てを物語っています。

5月24日に書面開催された『地域公共交通会議』では、沼須線に係わる地域内フィーダー系統確保維持計画での資料の一部を掲載します。

○最大乗車数＝13人×7.5便×2＝195人／1日

○R元年10月1日～R2年9月30日 年間平均乗車総人数7,122人÷245営業日数÷29人

1日7.5便の沼須線は1便あたり3.8人の乗車実態で、この数字は沼田市委託路線バス乗車率ではかなり良い方と捉えられます。

○年間収益見込み額 1,021,538円

年間概算運行経費額7,296,365円

－6,274,827円（赤字額）

この数字は「現状の延長線」での改善策の限界を示していると考えます。

市負担額約7,000万円（実質6,000万円）

交通弱者の移動手段確保はとても重要ですが

令和2年度沼田市委託路線収支状況

路線名	事業収入	必要費用	収支状況	収支率	市助成総額
佐山線	1,088,298	9,183,086	－8,094,788	11.85%	8,151,977
岩本線	719,802	8,438,838	－7,719,036	8.53%	7,777,967
中山本宿	2,979,602	13,428,906	－10,449,304	22.19%	10,564,362
迦葉山線	2,311,789	16,014,882	－13,703,093	14.44%	13,859,065
南郷線	923,884	7,769,416	－6,845,532	11.89%	6,900,974
川田線	146,941	2,297,561	－2,150,620	6.40%	2,167,724
宇楚井原	486,086	3,547,731	－3,061,645	13.70%	3,084,577
奈良秋塚	293,585	3,609,542	－3,315,957	8.13%	3,341,320
沼須線	1,319,173	7,189,712	－5,870,539	18.35%	2,938,893
根利尾瀬	208,835	10,432,425	－10,223,590	2.00%	10,362,590
合計	10,477,995	81,912,099	－71,434,104		69,149,449

千葉県佐倉市の事例に習い水泳授業の北小外部委託化実施

以前から提案していた学校における体育授業の外部委託化の試験運用がいよいよ開始されました。

実施したのは沼田北小学校の児童計255人が、その対象となりました。

近年、学校施設の老朽化も例外なく加速しています。従来通り修繕・改修・新規建設を重ねていく方法では、公共施設の維持費が市財政全体を圧迫し、福祉や経済対策等の施策実施をも困難になってしまいます。北小には目の前にジェルスイミングさんがあり、民間ならではの専門性で充実した水泳指導を実施しています。民間事業者にも児童にも先生にも沼田市財政にも「四方良し」となるよう課題を精査しながら、その拡充策などについて質問させていただきました。



ジェルスイミングの前に集合する北小児童の様子



画像はイメージで実際の教室ではありません。

質問水泳授業の民間委託方式導入検討の進捗と課題について伺います。これも過日の議会で提案させていただいた具体的施策の1つです。

具体的な検討、実施予定があれば、お聞かせください。

また、検討の際、どのような方々と何回程度この水泳の民間委託のことで話し合ったのか、その大まかな状況について伺います。

答え水泳授業の民間委託化の検討状況と今後についてであります。今年度は、市内小学校1校が市内のスイミングスクールにおいて、民間施設を利用した水泳の授業を試行する予定です。これは、施設の効果的な利用や教育的効果、安全面等を考慮した上で、先行実施するものです。

今後は、試行の状況を踏まえて、成果や課題を明らかにし、水泳授業の民間委託化を市内の他校へも広げられるか否かを慎重に見極めていきたいと考えております。

ファシリティマネジメントの民間提案制度に提案事業者と市の財政課の職員で4回ほど話をし、確認をしております。審査後に提案事業者と市の財政課の職員、教育委員会の部長、課長と打合せを行いました。

その後は、教育委員会が窓口になって学校が提案事業者と打合せを電話やメールでのやり取りも、かなりの回数になると思っております。



財政効率もさることながら…

学校プールの維持費は一般的に約150万円とされています。

勿論、施設管理コストの削減も重要ですが、同時に私が着目しているのは、水泳の授業の教員と児童の物理的・心理的な課題です。

教員にとっても児童にとっても、それが楽しいか苦痛かによって大きく変わります。

そしてそのことが、好きな授業・嫌いな授業に二分され、上手くなる・苦手になる。につながり大別されていくと思います。

水泳の授業開始の契機は、修学旅行の船の沈没による児童の水難事故と聞いています。

クロールや平泳ぎなどの技術の向上も大切ですが、楽しみながら、いざという時には溺れない技術や知識の習得が出来たらと、私自身は考えています。

そうした事に好影響となることを期待します。

令和3年度 小学校水泳業務委託事業実施概要

時限	学年／人数	1回目人数	2回目人数	3回目人数	内容
1	6年生／46名	38名	40名	33名	水泳運動
2	5年生／45名	42名	43名	42名	水泳運動
3	4年生／47名	45名	46名	44名	水泳運動
4	3年生／37名 2年生／29名	55名	60名		水泳運動 水遊び
5	1年生／51名	43名	44名		水遊び
	255名	223名	233名	119名	575名

中央公民館跡地を活用して 街なかを南北に歩いて暮らせるまちづくりの再構築を!

平成10年から事業着手以来、継続中の中心市街地土地区画整理事業も、ようやく仮換地指定率57.4%となりましたが、残り約半分の事業の展開は視界が良好とは言えない状況にあります。計画の中心に据えられたのが「2核1モール構想」で上之町と下之町の核施設の間を一つのモールで回遊するものでした。事業が長期化する中で様々内容も変化し現在は、上之町では「大正ロマン」でのイメージが出来つつあります。

私は、今後進捗していく事業の目指すべき「将来イメージ」として「歩いて暮らせるまちづくり」を再度明確にすべきと考え、質問致しました。



質問「まちなかウォーカブル推進プログラム」などを活用して、中央公民館の跡地を含め旧市役所通りと本町通りを南北に貫く「歩行を基盤」として、「新たな公共スペースの構築」によって中心市街地再生を促していく事が望ましいと考えるのですが、市長の基本的な考え方を伺います。私は、中心市街地に改めて「新たな住宅セーフティネット制度」の趣旨を活かして、居住に課題を抱える方々と、多様な方々が共生できる空間の創造が重要と考えます。

そして、市長の目指す「優しさと築くまち」「誰もがしあわせを実感できるまちづくり」を明確にしていくべきと考えますが、市長の基本的な考え方をお聞きします。

答え歩いて暮らせるまちづくりに欠かせない歩行空間の整備は、市街地整備の基本施策です。

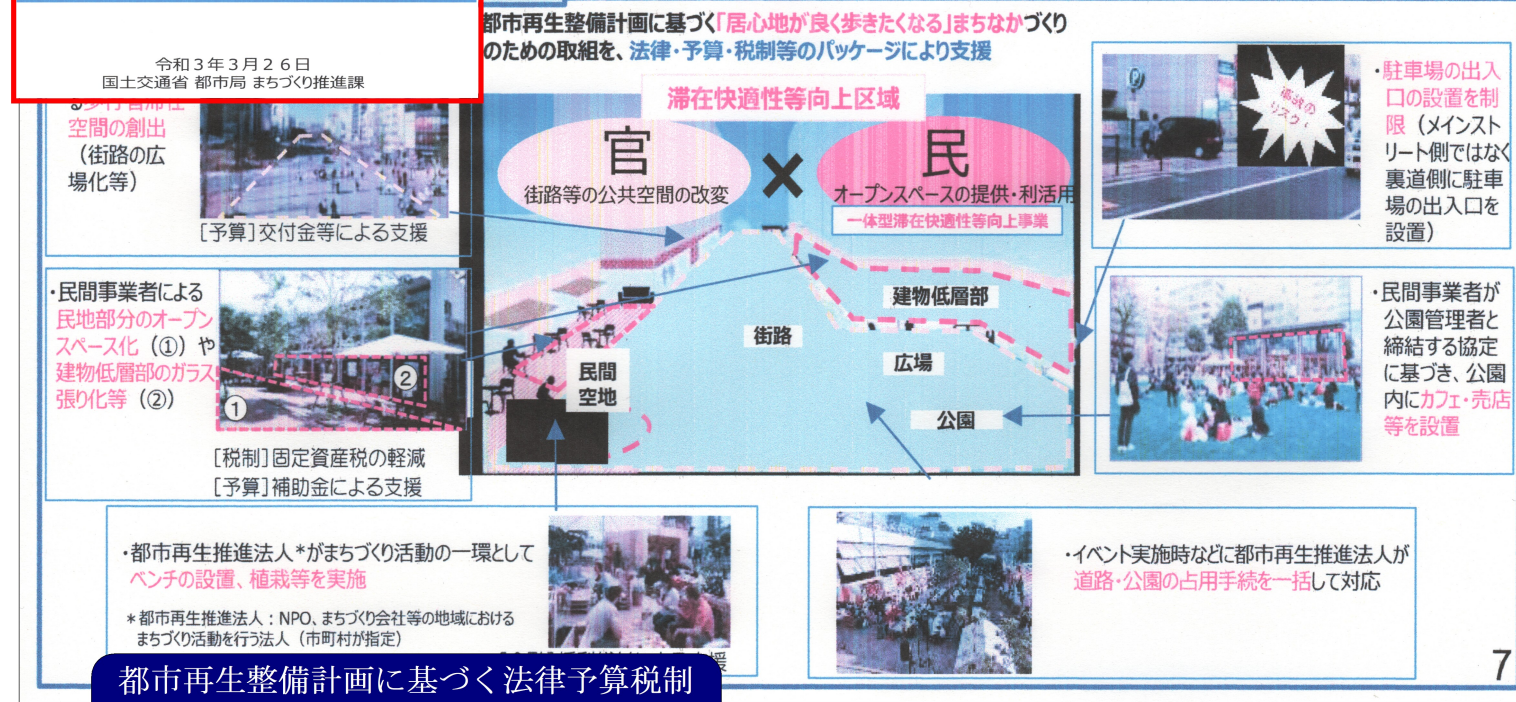
土地区画整理事業による安全で安心な道路整備等が進むことにより、スマートウェルネスの考え方にある、市民一人ひとりの健康ライフスタイルの確立を目指すための健康づくりの環境整備が図られるものと考えています。

なお、沼田女子高等学校と連携して作成したウォーキングコースとして、本町通りが設定されるなど、引き続き連携に努めていきたいと考えています。

5街区に計画されている公益的施設用地については、市役所庁舎の移転、中央公民館の解体等、周辺の状況も当初に計画した当時とは変化をきています。

市街地活性化を図る上で、人の流れは重要な要素ですので、旧市役所通りと本町通りを結ぶ、歩行を基盤とした新たな公共スペースの構築については、検討を進めていく考えです。

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかに向けた取組について



都市再生整備計画に基づく法律予算税制 のパッケージによる支援

上の概要図は、「官」と「民」が連携して以下の優遇策を活用して、民間主導によって「新しい公共」＝「おおやけ」スペースを創造するという試みです。

- ①歩行者滞在空間の創出 街路の広場化
- ②民地部分のオープンスペース化や建築物低層部のガラス張り化等

- ③まちづくり活動の一環として、ベンチの設置植栽等の実施
 - ④駐車場の出入口の設置を制限（裏路地出入口）
 - ⑤民間事業者が公園管理者との協定で、公園内にカフェ・売店等を設置
- こんな仕組みを活用して街中再生を考えました。

居住に課題を抱える方の街なか居住

質問「沼田市都市計画マスタープラン」中のアンケートでは、将来暮らしたいまちのイメージとして、H20年とH30年で1位と2位が入れ替わり「水と緑が豊かで、自然と田園と市街地のバランスがとれたまち」から「子どもや高齢者、障害者に優しい福祉環境の充実したまち」へと市民意識も変化しています。中心市街地に改めて「新たな住宅セーフティネット制度」の趣旨を活かして、居住に課題を抱える方々と、多様な方々が共生できる空間の創造が重要と考えますが市長の基本的な考え方を伺います。

答え空洞化が進む中心市街地において、土地区画整理事業を手法として、土地の入替えと建物の更新を行いながら、道路等都市基盤の整備改善と居住環境の向上を図っています。しかし、土地の利活用は、所有者の計画により進められており、公営住宅の需要が徐々に低下している中、中心市街地における土地活用としての集合住宅の建設等に期待をしています。今後も、中心市街地の活性化の観点から、土地の共同活用や街なか居住の誘導について、推進していく考えです。

【新たな住宅セーフティネット制度のイメージ】

